

平成16(2004)年度

特別展 大(Oh!)水木しげる展 なまけものになりなさい

4月29日～5月30日

入場者総数 15,151人

水木プロダクションと水木しげる記念館の全面的な協力と、荒俣宏と京極夏彦のプロデュースによる全国巡回展の第1会場として、第1・第2・第3展示室で開催。水木しげるの全体像を紹介するため、かつてない規模と趣向で展示を構成した。

企画展 発見しよう！自然のふしぎ

7月17日～8月25日

入場者総数 5,794人

当館が収集した地学・動物・植物の3分野の自然史資料を「ふしぎ」と「探求」という2つのテーマを軸に紹介した。また、参加体験型展示を多く加えることで、自然への関心や探求心を喚起する展示を行った。

企画展 空から見た郷土のすがた

7月17日～8月25日

入場者総数 5,794人

県立博物館と各市町村教育委員会が、昭和43年(1968)から平成15年まで、5年毎に地域の変化を計画的・継続的に記録、保存するため、地点を定めて航空写真と地上写真を撮影した「郷土視覚定点資料収集事業」の成果を展示し、変化しつつある郷土のすがたを広く県民に紹介した。

特別展 鳥取藩32万石

10月16日～11月14日

入場者総数 8,048人

江戸時代240年にわたって、現在の鳥取県の範囲を治めていた鳥取藩池田家の歴代藩主や、鳥取藩の政治・文化について総合的に紹介した。

企画展 現代の表現 鳥取vol.2 平久弥・池本喜巳

11月21日～12月19日

入場者総数 3,967人

「現代の表現 鳥取」第2回展として、同じ写真というメディアを用いて異なる表現を展開している画家の平久弥と写真家の池本喜巳を紹介した。会場は第2展示室で、平は初期から近作までを、池本は代表作の近世店屋考シリーズを中心に展示した。

企画展 郷土作家展 板画の詩 長谷川富三郎

12月23日～1月23日

入場者総数 2,513人

教育者として出発しながら、「砂丘社」の運動や民藝運動に触発され、棟方志功らの大きな影響を受けて木版画家としても活躍した長谷川富三郎の業績を回顧する展覧会。会場は第2展示室で、長谷川が残した版画約100点と関連資料を展示した。

企画展 共同企画展 三重奏 鳥取県立博物館・倉吉博物館・米子市 美術館のコレクションでつくる展覧会

2月5日～2月27日

入場者総数 1,364人

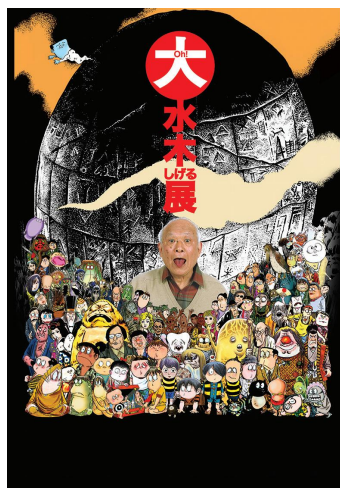
県内各地域の館の公的コレクションを横断的に利用して展覧会を企画する取り組みの第3回展(最終回)を、当館の第1展示室で開催した。終戦から戦後復興期、昭和の終わりまでの間に活動した作家たちの表現を各館の所蔵品でたどった。

企画展 丸沼芸術の森所蔵 アンドリュー・ワイエス水彩素描展

3月12日～4月17日

入場者総数 8,216人

アメリカン・リアリズムを代表する画家アンドリュー・ワイエスの「オルソン・シリーズ」として知られる水彩素描作品115点を紹介した。会場は第2展示室で、有名な《クリスティーナの世界》の習作や構想画など、貴重な作品が展示された。



平成17(2005)年度

特別展 遙かなる進化
— 恐竜・マンモスそしてホモ・サピエンス —

7月16日～8月28日

入場者総数 27,111人

恐竜、マンモス、そして我々人類へと遙かなる進化の道のりを歩んできた脊椎動物。その歴史を多数の標本を交えて紹介した。さらに、鳥取県から見つかった魚類化石などの標本も、最新の研究成果とともに解説した。

企画展 鳥取の山岳信仰

10月7日～11月6日

入場者総数 5,432人

国宝「投入堂」を有する三徳山が平成18年に開山1300年を迎え、世界遺産登録に向けた取り組みが行われていることから、山岳信仰の聖地として長い歴史を持つ大山・三徳山を中心に、県内各地に存在する山岳信仰遺跡と、その庶民との結びつきを紹介した。

企画展 現代の表現 鳥取 vol.3
嶋田悦子・福井貞子
絛表現における伝統と創造

10月8日～11月6日

入場者総数 5,379人

「現代の表現 鳥取」第3回展として、地域に伝わる伝統的な絛織の技法と意匠を自らの表現に結びつけることで全国的な評価を得てきた染織家・嶋田悦子と福井貞子の仕事を紹介した。会場は第2展示室で、二人の代表作と近作を中心に展示した。

特別展 アメリカ現代美術展
ミスミコレクションによる: Contemporary Voice

11月19日～12月25日

入場者総数 4,719人

その先見性・独創性から国内外の高い評価を得ている「ミスミコレクション」により、質の高い60年代の版画から新進気鋭の若手作家によるみずみずしい平面作品まで、48人の作家による作品113点を展示し、現代アメリカ美術の一断面を紹介した。

企画展 郷土作家展
異景 — 八橋誠滋／渡里彰造の世界 —

2月7日～2月26日

入場者総数 915人

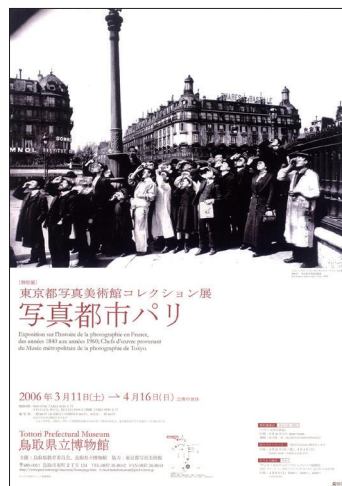
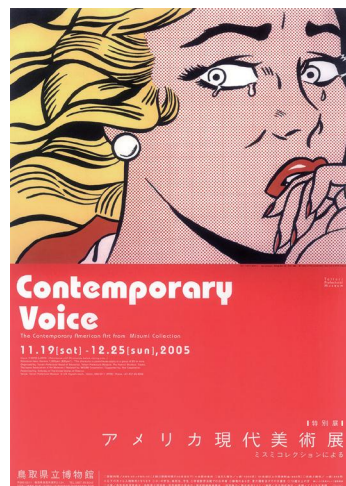
郷土作家展は鳥取県ゆかりの作家に焦点を当て、県内3会場を巡回する展覧会で、平成17年度は洋画家の八橋誠滋と、第9回林忠彦賞を受賞した写真家の渡里彰造を紹介した。当館では第1展示室を会場に、八橋50点、渡里147点の作品を展示した。

特別展 東京都写真美術館コレクション展
写真都市パリ

3月11日～4月16日

入場者総数 3,173人

東京都写真美術館の所蔵品から当館が独自にセレクトし、写真黎明期の1840年代から第二次世界大戦後の1960年代までのフランス写真の流れを概観できる展覧会を開催した。会場は第1・第2展示室で、写真史に残る優れた作品を紹介した。



平成18(2006)年度

特別展 女ならではの世は明けぬ —江戸・鳥取の女性たち—

5月14日～6月11日

入場者総数 2,371人

江戸時代の女性たちの装いの文化と鳥取藩の女性たちに焦点をあて、生活道具・古文書・書画・肖像などの歴史資料を一堂に展示した。知られざる鳥取ゆかりの女性たちの実像を紹介した。

企画展 遠い海

7月15日～8月27日

入場者総数 20,378人

海にすむ生物の多様性をつながりを紹介し、シアターや体験型展示も活用して、海の環境を守ることの重要性を考える展示を行った。また、マンボウなど鳥取県に漂着した海洋生物の調査から、世界的な研究成果が生まれていることも紹介した。

特別展 沖一峨 鳥取藩御用絵師

10月7日～11月5日

入場者総数 7,609人

鳥取藩絵師として八代続いた沖家の中で最も評価の高い一峨の真骨頂である花鳥画の他、幅広い画境を示す作品を一堂に展示し、その全貌を紹介した。会場は第1・第2・第3展示室で、一峨周辺の江戸琳派の絵師や伊藤若冲らの作品も紹介した。

特別展 東京都現代美術館所蔵 デイヴィット・ホックニー版画展

11月18日～12月17日

入場者総数 2,976人

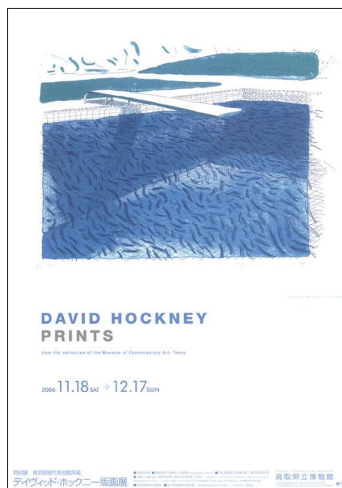
海外作家紹介展の第6回として、英国出身の世界的な美術家・ホックニーを取り上げ、初期から90年代までの版画作品を中心に、絵画やフォトコラージュ作品も展示し、その実験的精神に満ちた作品世界を紹介した。会場は第1・第2展示室。

企画展 郷土作家展 海と空と 角護・石谷孝二

3月3日～3月18日

入場者総数 1,072人

郷土作家展は鳥取県ゆかりの作家に焦点を当て、県内3会場を巡回する展覧会で、平成18年度は洋画家の角護と、彫刻家の石谷孝二を紹介した。当館では第2展示室を会場に、角の作品26点、石谷の作品24点をそれぞれ展示した。



平成19(2007)年度

企画展 現代の表現 鳥取 vol.4
中ハシクシゲ展 ZEROs 連鎖する記憶

4月28日～5月27日

入場者総数 1,748人

米子で中高時代を過ごした現代美術作家の中ハシクシゲの個展を開催した。第1・第2・第3展示室を会場に、世界各地で制作している「ゼロ・プロジェクト」と「オン・ザ・デイ・プロジェクト」を、鳥取のボランティアとともに制作・展示した。

企画展 石谷コレクション展

6月2日～7月1日

入場者総数 2,696人

平成17年度に智頭町の石谷正樹氏より絵画作品71件と書作品87件、陶磁器219件が寄贈されたことを記念し、第3展示室を会場に、石谷コレクションの選りすぐりの名品80件を紹介した。

企画展 挑戦者たち
— 動物の適応進化と性淘汰 —

7月14日～8月26日

入場者総数 12,761人

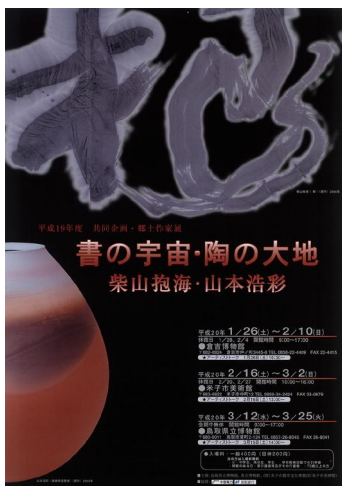
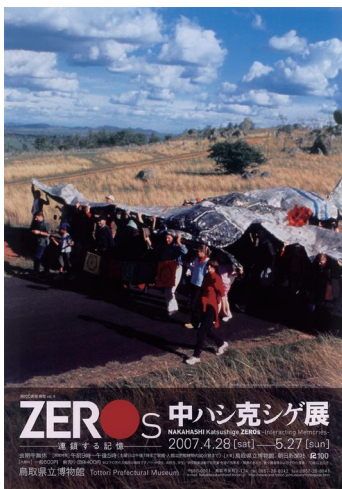
動物たちの多様な形や行動をとおして、自然環境への適応や進化のしくみを解説した。また、鳥取砂丘の動植物に関するシンポジウムと展示も行い、砂丘の知られざる姿を紹介するとともに、その保全のあり方について考える企画を行った。

企画展 万里の長城写真展
— 河北省の長城と歴史 —

10月3日～10月24日

入場者総数 2,416人

中国河北省博物館と鳥取県立博物館の友好交流館協定10周年を記念し、河北省博物館提供写真と当館所蔵の漢籍を展示して河北省内の「万里の長城」を紹介した展覧会。同省内の名勝・史跡も紹介した。



企画展 ヴェネツィア絵画のきらめき 栄光のルネサンスから 華麗なる18世紀へ

11月3日～12月9日

入場者総数 7,852人

開館35周年を記念し、近代ヨーロッパ絵画の発展に大きな影響を与えたヴェネツィア絵画の展覧会を開催した。第1・第2・第3展示室を会場に、イタリア国内の美術館、個人のコレクションから選んだティツィアーノ等の作品71点を展示した。

企画展 郷土作家展 書の宇宙・陶の大地 柴山抱海・山本浩彩

3月12日～3月25日

入場者総数 1,054人

郷土作家展は鳥取県ゆかりの作家に焦点を当て、県内3会場を巡回する展覧会で、平成19年度は現代書家の柴山抱海と、陶芸家の山本浩彩を紹介した。当館では第1展示室を会場に、柴山の作品23点、山本の作品28点をそれぞれ展示した。

企画展 因幡・伯耆の王者たち

3月14日～4月13日

入場者総数 2,299人

鳥取県内の主要古墳から出土した鏡、鉄製武器、装身具といった副葬品や埴輪・土器など、190件にのぼる優れた出土品を展示するとともに、最新の研究・発掘調査成果をあわせ、鳥取県の古墳時代を紹介した。

平成20(2008)年度

企画展 前田寛治のパリ

5月19日～6月22日

入場者総数 4,203人

前田寛治の画業に大きな役割を果たしたパリ留学に注目し、約130点の作品や当時の資料等をもとにパリ留学の成果を示した。第1・第2・第3展示室を会場に、前田とその周辺の画家や、前田が影響を受けたフランスの画家等の作品を展示した。

企画展 ようこそ恐竜ラボへ！
—化石の謎をときあかす—

7月19日～8月24日

入場者総数 22,516人

旧林原自然科学博物館とモンゴル科学アカデミーによるゴビ砂漠共同調査で得られた国内屈指の恐竜化石標本群を、日本で初めて「恐竜研究のプロセス：発掘、研究、復元」をテーマとし、約100点の資料を用いて展示・解説した。



企画展 はじまりの物語
—縁起絵巻に描かれた古のとっとり—

10月4日～11月9日

入場者総数 4,803人

県内寺社やと鳥取ゆかりの県外寺社の縁起と、そこで語られる人物・事件・地域に関わる古記録や仏像などの関連資料を併せて展示し、古代・中世の鳥取の歴史及び中世・近世の人々の意識や世界観を紹介した。

企画展 シュルレアリスムとその周辺

11月22日～12月23日

入場者総数 3,698人

海外作家紹介展の第7回として、20世紀を代表する芸術運動の一つであるシュルレアリスムの作品を紹介した。会場は第1・第2展示室。ダリやミロ、マグリット等の代表的作家の他、クリストやジョン・ケージ等、その影響を受けた作家も紹介した。

企画展 郷土作家展
海の刻 古市義二・岸本章

1月12日～1月25日

入場者総数 711人

郷土作家展は鳥取県ゆかりの作家に焦点を当て、県内3会場を巡回する展覧会で、平成20年度は彫刻家の古市義二と、日本画家の岸本章を紹介した。当館では第1展示室を会場に、古市の作品17点、岸本の作品25点をそれぞれ展示した。



平成21(2009)年度

企画展 京の日本画

4月4日～5月10日

入場者総数 6,358人

鳥取県では10年ぶりとなる大規模な近代の日本画展として、京都国立近代美術館と京都市美術館のコレクションを中心に、明治から昭和にかけての京都画壇を代表する日本画家たちの作品とその変遷を紹介した。会場は第1・第2・第3展示室。

企画展 ベルギー王立美術館コレクション ベルギー近代絵画のあゆみ 印象派からフォーヴへ

7月22日～8月30日

入場者総数 5,687人

ベルギー王立美術館の選りすぐりのフランスおよびベルギーの近代絵画69点により、フランスに起源をもつ印象派などの芸術運動と、それらを受け入れながら発展したベルギーの近代絵画の流れを紹介した。会場は第1・第2展示室。



企画展 挑戦！頭脳パズルボックス

10月10日～11月8日

入場者総数 9,071人

難しいイメージのある「数学・算数」について、子どもから大人まで楽しく学べるよう、約20種類のユニークな体験型展示物を使って紹介した。また、鳥取大学数学教育研究室による、幼児向けの体験コーナー「算数の宝箱」も展示した。

企画展 シリーズ 鳥取の表現者 File.01 前田昭博 白瓷の造形

11月21日～12月20日

入場者総数 3,586人

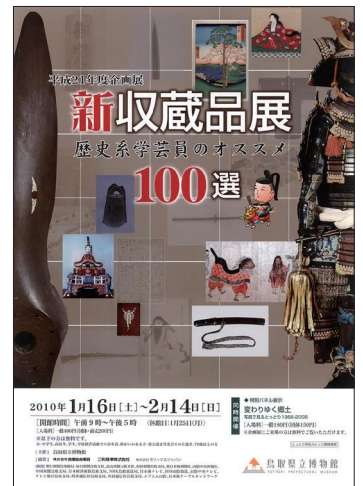
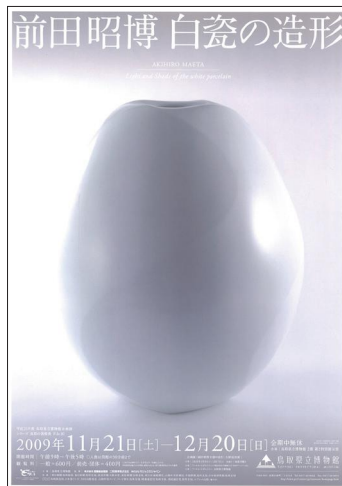
「現代の表現 鳥取」と「郷土作家展」を統合した「鳥取の表現者」の初回展として、その作品が国際巡回展にも出品される、現代日本を代表する陶芸家の一人として活躍する鳥取県出身の前田昭博の作品100点を、第2展示室を会場に紹介した。

企画展 新収蔵品展 — 歴史系学芸員のオススメ100選 —

1月16日～2月14日

入場者総数 2,617人

平成時代以降に、博物館が新たに収蔵した考古・歴史・民俗部門資料をお披露目する展覧会。鳥取の歴史・文化を楽しめる逸品から珍品までを、厳選して紹介した。



平成22(2010)年度

企画展 楊谷と元旦 因幡画壇の奇才

5月22日～6月20日

入場者総数 3,730人

平成22年が、江戸時代の鳥取を代表する絵師・片山楊谷の生誕250年と、鳥田元旦の没後170年にあたるため、二人の画業をこれまでにない規模で紹介した。第1・第2・第3展示室を会場に、強烈な個性を放った二人の作品約120点を展示した。

企画展 シーラカンス —その進化と大陸移動—

7月17日～8月29日

入場者総数 11,092人

生きている化石として有名なシーラカンスについて、その進化や背景にある大陸移動との関係に迫る展覧会を行った。史上最大のシーラカンスの復元骨格や数百点に及ぶ魚類化石を展示するとともに、生態映像や最新の研究成果も紹介した。



企画展 海と生きる

—海から見た江戸時代のとっとり—

10月9日～11月14日

入場者総数 2,681人

亀井茲矩の海外貿易や鳥取藩の水軍組織など支配者と海との歴史、漁業・海運・海への信仰といった庶民の暮らし、朝鮮漂流やアメリカ船に救出された鳥取藩領民、幕末の鳥取藩の海岸防備などを約200点の資料で、江戸時代を中心とした鳥取の海の歴史紹介した。

企画展 生誕100年 彫刻家 辻晉堂展

11月27日～1月10日

入場者総数 2,518人

陶彫等による斬新な彫刻を世に問い、戦後の彫刻界に独自の位置を占めた辻の生誕100年を記念し、各時代の代表作を中心とした約120点の作品を紹介した。会場は第1・第2・第3展示室で、鳥取展の後、神奈川県立近代美術館鎌倉に巡回した。

企画展 シリーズ 鳥取の表現者 File.02 イラストレーター 毛利彰の仕事

2月26日～3月27日

入場者総数 5,390人

「鳥取の表現者」の第2回展として、鳥取県出身で日本を代表するイラストレーターとして活躍した毛利彰の業績を紹介した。第1展示室を会場に、高校時代の油彩画から一世を風靡した伊勢丹のファッションイラスト等まで約200点を展示した。

